

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

平成27年4月1日

学 校 法 人 電 波 学 園
ぎ ぶ 国 際 高 等 学 校

ぎふ国際高等学校の学校教育目標

1. 学校教育の目標

- (1) 「自律・進取・創造」の校訓のもと、豊かな社会性を身に付け、地域社会人として信頼される確かな基本的生活習慣・規範意識や考え方・生き方を育成する。
- (2) 夢や目標をもち、社会に貢献できる自己の実現に向け、基礎的・基本的な学力の定着を図りつつ、主体的・継続的に学び続ける意欲や態度を育成する。
- (3) 他人の立場や思いを理解し、互いの人格を尊重し、思いやりのある言動をとることができる豊かな人間性を育成する。

2. 学校教育の方針

- (1) 岐阜県・岐阜市に根をおろし、中学校や高等学校と日常的な連携を深め、地域社会からも信頼される学校づくりを目指す。
- (2) 誠実でありながら苦戦している生徒（保護者）たちにとって、必要不可欠な存在となるべく、教育の質的向上と情報発信に努める。
- (3) 受容・理解・支援のカウンセリングマインドを基盤に、個に応じた「面倒見の良い」きめ細かな指導を、全職員の共通理解・共通指導のもと実践し、個々の生徒の自己実現を図る。
- (4) 保護者や地域社会との相互理解・信頼・連携・協力を深め、豊かで確固たる学校文化を創造する。

3. 学校教育の重点

- (1) 学校経営の重点…すべての生徒が安心して楽しく学び、確かな学力を身につけ、自己実現していけるための教育環境・教育課程・教育相談等の充実を図る。
- (2) 教科指導の重点…基礎学力の定着を基盤に、個に応じたきめ細かな学習支援を行い、思考力・判断力・表現力の育成を意図し、学ぶ喜びを感じさせながら自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。
- (3) 特活指導の重点…集団や社会の一員として必要な礼儀・社会常識・言葉遣い・協調性・社会貢献への主体的参加姿勢等を身につけさせ、豊かな生活や人間関係を築こうとする実践的態度を育成する。
- (4) 人権教育の重点…自他の人権を尊重し、誰もが安心して楽しく生活できる集団環境の醸成に努める。
- (5) 生徒指導の重点…守るべき規律・規範を明確にし、生徒が主体的に遵守していけるよう、職員の共通指導を徹底させる。
- (6) 教育相談の重点…多くの生徒が精神的・身体的な課題を抱え、これまでの成育歴の中で心の傷を負ってきたことを踏まえ、踏まえ、全職員がカウンセリングマインドをもって受容・理解・支援の指導に徹する。
- (7) 進路指導の重点…社会性やコミュニケーション能力の向上を図り、適性や長所等の自己理解を深めさせ、具体的な進路目標を早期にもって主体的に自己実現していけるよう、指導の充実を図る。
- (8) 健康安全指導の重点…自己の生活・健康・安全・環境についての意識を高め、自己管理能力の育成を図る。
- (9) 対外活動の重点…本校の存在意義やよさを、保護者・地域・中学校・高等学校・特別支援学校関係機関等より多くの人々に理解される為の啓発活動を充実させる。

生徒対象アンケート結果

次の項目について、A～Eの該当する欄に○印を付けてください。

A. よくあてはまる B. ややあてはまる C. あまりあてはまらない D. まったくあてはまらない E. わからない

数値は割合(%)を示します

通番	項目	A	B	C	D	E
教育方針・学校経営	1 学校の教育方針や指導目標について分かりやすく説明を受けている。	30	40	20	3	7
	2 個性によるクラス分けや登校時間帯分けが行われていることで、自分の居場所を得ることができた。	40	37	14	3	5
	3 学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。	28	35	21	4	12
	4 学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	50	34	11	2	3
家庭との連携	5 学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けている。	53	25	14	5	3
	6 家庭で学校に関する話をしている。	36	31	19	10	4
教職員	7 先生に親しみやすさを感じている。	31	44	15	4	5
	8 先生は悩みや相談事に親切・丁寧に対応してくれる。	34	32	12	5	16
	9 事務職員の対応は親切・丁寧である。	42	32	13	6	8
学習指導	10 理解しやすい授業が行われている。	34	44	14	4	4
	11 先生は熱心に授業を行っている。	38	43	12	3	5
	12 落ち着いた雰囲気や授業を受けることができている。	50	28	13	4	3
	13 基礎学力が身に付いてきたと感じている。	20	39	23	9	9
	14 総合的な学習の時間の内容は有意義である。	23	39	20	6	12
	15 レポート作成などを含め、継続的な家庭学習を行っている。	32	37	19	7	4
生徒指導	16 マナーを身に付けることや、社会のルールを守るようにとの指導が適切に行われている。	41	34	16	3	8
	17 個性に応じた服装、頭髪等の指導が適切に行われている。	44	28	18	3	7
	18 いじめや対人トラブルが発生しないための指導がされており、もし発生した場合は速やかに対応してもらえる。	28	25	15	4	29
進路指導	19 有意義な進路説明会が行われている。	28	30	16	4	22
	20 個別の進路相談に熱心に対応してもらえる。	28	32	12	4	24
健康管理・安全指導	21 生徒の衛生面に配慮し、身体の健康維持に対する指導を適切に行っている。	29	34	16	3	18
	22 臨床心理士や養護教諭がいるので学校に安心感が持てる。	37	27	15	4	18
	23 学校は交通事故の防止活動、避難訓練などを通して安全確保に努めている。	34	33	14	6	12
	24 地震や台風などの際の対応についての指導をしっかり受けている。	37	32	15	6	11
学校行事等	25 特別活動は充実している。	38	35	14	4	10
	26 部活動が活発に行われている。	15	22	23	12	29
	27 生徒会活動は活発である。	21	27	17	6	28
	28 学校はボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。	22	34	17	5	22

保護者対象アンケート結果

次の項目について、A～Eの該当する欄に○印を付けてください。

A. よくあてはまる B. ややあてはまる C. あまりあてはまらない D. まったくあてはまらない E. わからない

数値は割合(%)を示します

通番	項目	A	B	C	D	E
教育方針 ・ 学校経営	1 学校の教育方針(個性によるクラス分け等)や指導の内容に共感できる。	37	44	13	1	5
	2 明るく楽しそうに学校生活を送っている	37	39	15	2	6
	3 学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。	20	44	17	1	18
	4 学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	41	44	8	1	6
家庭との連携	5 学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている。	56	33	6	1	3
	6 学校と保護者との連携はしっかりとれている。	25	47	18	3	6
	7 子どもは家庭で学校でのことをよく話す。	25	38	30	6	1
教員	8 保護者が学校を訪問したり、電話した時の教員の対応は適切である。	47	41	6	0	6
	9 教員の子どもに接する時の態度は適切である。	26	44	8	1	21
	10 教員の子どもに対する指導(学習・生活・進路)に熱心さを感じる。	25	44	12	2	17
事務職員	11 保護者が学校を訪問したり、電話した時の事務職員の対応は適切である。	47	40	4	1	8
	12 事務職員の子供に接する時の態度は適切である	29	40	7	1	23
	13 事務職員による学納金等の事務説明が明確である。	37	46	6	1	11
学習指導	14 学校は基礎学力の定着・向上に努めている。	24	44	14	1	16
	15 教員は熱心に学習指導を行っている。	24	44	11	1	20
	16 レポート作成など家庭学習が定着してきた。	29	38	21	3	10
生徒指導	17 マナーを身に付けることや、社会のルールを守るようにとの指導が適切に行われている。	23	44	15	1	17
	18 個性に応じた服装、頭髪等の指導が適切に行われている。	27	44	12	2	16
	19 いじめや対人トラブルが発生しないための指導がされており、発生した場合は速やかな対応がなされている。	21	31	8	0	39
進路指導	20 進路説明会などが適切に行われている。	27	50	9	0	14
	21 生徒の将来の希望や適性に沿った具体的な進路指導が行われている。	22	41	13	1	23
健康管理 ・ 安全指導	22 学校は生徒の衛生面に配慮し、身体の健康維持に対する指導を適切に行っている。	28	37	10	1	24
	23 学校は臨床心理士を配置するなど教育相談活動の充実を図り、心のケアに努めている。	36	38	7	2	17
	24 学校は交通事故の防止活動、避難訓練などを通して子どもの安全確保に努めている。	29	41	8	1	20
	25 学校から地震や台風などの際の対応について、生徒や保護者に対応マニュアルが知らされている。	36	35	13	3	14
学校行事等	26 学校は子どもの成長の糧となるような学校行事を行っている。	26	45	15	2	12
	27 本校の生徒会活動は活発である。	14	36	14	1	34
	28 学校はボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。	15	37	15	1	32
	29 本校の保護者会活動は活発である。	15	37	14	3	32

平成26年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号	102
------	-----

I 自己評価

1 学校教育目標	別紙参照	
2 評価する領域・分野	◇教務（学校経営・教育課程・学習指導）	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	各学習センターの運営と生徒の状況の情報共有。 豊橋、名古屋の学習センターの閉鎖に向けた準備。 岐阜本校のコース増への検討。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	単位取得率の維持、向上。 生徒への共通理解を図り、授業展開を工夫することで学習意欲の向上を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	連絡会議において、心理士の先生から発達障がいについての講義を受け、生徒理解に努める。また、生徒の現状を共通理解を図る。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
授業アンケートの実施。 生徒・保護者への学校評価アンケートの実施 発達障がい学習会の実施。	単位修得率 アンケート集計	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
前期末、後期末での授業アンケートの実施 学習会を開き、発達障がいへの知識を増やすとともに、生徒の具体例を使い全員で検討する。	単位修得率かどうか アンケートでの評価はどうか	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D
11 成果・課題	総合評価	
単位取得率は昨年度と大きな変化がなかった。 授業評価もまずまずだが、基礎学力の定着の面で評価が低い。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D	
12 来年度に向けての改善方策案		
追試験を実施し、勉学に対しての甘えを払しょくする。低学力、発達障がいの生徒に対して補習授業を実施する。タブレットなどを利用し、視覚に訴える授業を研究する。		

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成26年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号 102

I 自己評価

1	学校教育目標	別紙参照	
2	評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談	
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめのない、安心して登校できる学校づくり ・登校して、楽しい学校づくり ・生徒が落ち着いて学べる環境づくり 	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して登校できる学校 ・校則の遵守 	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士、教育相談、生徒指導、担任の連携 	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談、朝の玄関指導 ・高校生のびのびプロジェクト活動 ・MSリーダーズ活動、街頭啓発活動の参加 ・地域市民活動への参加、清掃活動 ・エコキャップ運動、募金活動、マナー啓発活動 		<ul style="list-style-type: none"> ・クリスタルコースが落ち着いた状態になっているかどうか。 ・レインボーコースが規則遵守の雰囲気になっているかどうか。 	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・まゆざり・化粧・頭髪の色・服装・履物ピアス・付け爪等をチェックし、指導を実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・校内の雰囲気(落ち着き度) 	A (B) C D
11	成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや学校の様子に対する不安については、若干、特定の生徒が不安を感じるような事案があったが早急に対応し、大事には至らなかった。 ・懲戒規定に触れる行為が6件と減少傾向にある。しかし、それ以外のマナー違反による注意指導が時折見られた。 		<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>	
12	来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・クリスタルコースについては、楽しく、安心して登校できる学校づくり。 ・レインボーコースについては、規則遵守、基本的な生活習慣の確立の継続指導を行い、単位修得率の向上につなげる。 			

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成26年度 自己評価 報告書
ぎふ国際高等学校

学校番号 102

I 自己評価

1	学校教育目標	別紙参照		
2	評価する領域・分野	◇進路指導		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	進路説明会に関して保護者は77.0%、生徒は58.0%が適切に行われていると評価。個別の生徒指導に関しては保護者が63.0%、生徒は60.0%が適切に行われていると評価。前年に比べて保護者の評価が上がった。しかし、生徒の評価が6割に達しない進路説明会の実施方法には課題が残った。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	個別指導の時間の不足は、根本的には通信制の制度による部分が大きいが、担任による指導の工夫は必要ではある。生徒の評価は前年と変わらない程度のものであり改善の必要がある。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	第一に3年次担任の間の生徒に関する情報共有。進路スケジュールの共有。これら2点の徹底により3年次担任誰でも個別指導ができる環境づくりを目指す。共通のスケジュール管理のための進路便りを定期化する。希望分野に沿った小説明会の実施。関連分野の講師の招へいを検討する。		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標	
大学、専門学校の教員、入試広報担当者を招いて進路説明会を年2回実施し、会終了後の担任の個別指導を充実させる。また、従来1・2年同時に開催していた進路説明会を分離する。就職希望の生徒に対する情報提供の充実を図るため、ハローワーク主催の企業説明会への参加の推奨を徹底する。		3年次生対象の進路説明会では保護者の参加率が増え、およそ25%は参加。生徒の参加率はおよそ55%であった。		
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点	
6.に加えてPTA主催として大学専門学校の見学会を実施。大学短大進学希望者に対して、適切な進学先選択ができるように、従来の外部模試の受験を推奨。結果のフィードバックを通じて適切な進路選択ができるように情報を提供、指導を行う。		昨年度に引き続き、進路説明会の参加率、任意ではあるが、就職希望者のハローワーク主催の企業説明会の参加率。大学短大希望者の模試の受験率。就職希望者の就職試験未受験率。各割合を集計、結果と合わせて生徒の進路決定に対する意識を検討。	10	評価
			A (B) C D A (B) C D	
11	成果・課題	総合評価		
外部講師による進路説明会、講話の充実。進学に関しては、大学、専門学校の教員、入試広報担当者を招いて進路説明会を年2回実施。大学短大進学希望者に対して、適切な進学先選択ができるように、従来の外部模試に加えて学内模試を実施。受験者は、学外(20人)、学内(25人)であった。前年より増加。結果のフィードバックを通じて適切な進路選択ができたと思われる。就職に関しては、ハローワークの担当者及び福祉協議会の担当者を招いて進路説明会を実施し、参加者は各会20名前後。さらに就職希望の生徒に対する情報提供の充実を図りたい。ハローワーク主催の企業展参加者10人のうち4名が内定。全体の進路決定率は県内通信制高校平均の6割を上回り7割を5年連続保持できた。		A (B) C D A (B) C D		
12	来年度に向けての改善方策案			
特に生徒の希望に沿った小説明会の充実を図りたい。従来の全体的な進路指導は形になってきたと思われる。保護者の評価も得られるようになってきた。今後は、生徒の希望に沿った丁寧で細やかな指導、それを実現するためには教員が受身で生徒の対応をするのではなく、どんどんと小説明会を実施し、生徒の進路決定の支援をしていき、生徒の後押しを図りたい。また教員間の意識の統一を図るため進路便りを充実させていく。				

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成26年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号 102

I 自己評価

1	学校教育目標	別紙参照	
2	評価する領域・分野	◇特別活動	
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒、保護者に連絡事項の周知徹底を図るとともに卒業要件である時間数の履修が進むよう心がけた。 校外学習については大過なく実施でき、2年生は、姉妹校専門課程による職業体験学習を始めて取り入れた。異文化体験研修旅行となる海外研修旅行を実施するにあたり、希望する国をアンケート形式で決める。しかし、意見が割れてどのコースも最低催行人数の10名以上に至らなかった。	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	校外活動に関しては前期・後期各1回実施し、普段の授業では得られない学習、級友との会話、自己の向上を目指し参加できることを目標にする。姉妹校専門課程による職業体験学習は、前期に3年生・後期に2年生で実施を計画する。JICAによる派遣経験者による講演会の実施。修学旅行参加率が65%以上になるよう目標とする。	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	各担任および特別活動担当との間で緊密な事前協議を行い、生徒に対して特別活動の意義等の周知徹底を図る。また、各担任から修学旅行参加の重要性を事ある毎に説明する。	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
旅行会社との打合せ、特別活動担当・担任との話し合いを通じて有意義な活動になるよう準備する。 生徒に対する事前アンケートの実施。		生徒へのヒアリング及び引率教員の所感・各担任の意見を達成度の判断基準とした。	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 前後期1回ずつの校外活動と学校祭を実施した。 国際理解に向けてJICA派遣（派遣地：パラグアイ）の看護師による講演会を行った。 台湾への異文化体験研修旅行を企画したが、諸般の事情により参加希望生徒不足により実施できなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> 安全面において事故なく実施できたかどうか。 生徒にとって意義ある活動となったかどうか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11	成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> 校外活動については、大きな問題もなく実施できた。 学校祭については保護者会協力のもと生徒会主体で実施でき、全体的に好評であった。希望する生徒が少ないうえに、どうしても意見が割れて、コース毎の人数が僅少化してしまう。また登校日数も少ないので宣伝効果が薄い。 		<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>	
12	来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> 今年度の改善点を踏まえ、来年度の修学旅行がより一層充実した内容となるよう検討していく。 校外活動に前期は3年次、後期は2年次に職業体験学習・キャリア教育を加えていく。 異文化体験研修旅行実施のための国別コースアンケートで一番人気の韓国に行き先を絞り込み、海外旅行が実施できるようにする。 			

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成26年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号 102

I 自己評価

1	学校教育目標	別紙参照	
2	評価する領域・分野	◇保健厚生	
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での保健活動が保護者まで伝わっていない。年に一度健康診断は行っているが、他に学校としてどのような保健活動をしているか知られていない。 ・生徒に関しては健康診断の重要性をあまり感じていない生徒が多い。 	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	自身の健康状態に関心をもち、生活習慣の改善や健康への意識を高める。また、保護者への働きかけの一つとし、学校HPに保健だよりを掲載する。	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	健康診断実施に向けて受診の呼びかけ、未受診者に対して担任からも継続的な呼びかけをしてもらう。	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
健康診断の結果、精密検査や早期治療が必要な生徒に対して医療機関受診を促す。学校HPに、ほけんだよりを掲載することによって、学校での呼びかけや保健活動を保護者の方にも知ってもらえるよう計画する。		医療機関への受診率。	
8	取組状況・実践内容等	評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・精密検査、早期治療が必要な生徒に治療勧告書を配布。受診した生徒へ必要があれば保健指導を行う。 ・県からの保健ニュースの資料の内容をほけんだよりに盛り込むなどした保健だよりの作成。 		<ul style="list-style-type: none"> ・治療勧告書配布後、継続的な状況確認を行い、必要に応じて保健指導等ができたか。 ・保健資料の配布やほけんだよりの発行を通じ保健、衛生に関する情報提供を積極的に提供することができたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>
11	成果・課題	総合評価	
健康診断の結果を受け取り、治療勧告書の内容を確認しにきたりするなど、自身の健康状態について意識する姿や、治療勧告書を配布することなどで、医療機関受診への意識が高まった。毎月発行する保健だよりについて、今年度はHPへの掲載計画にとどまったが、次年度から掲載できるようになった。		A (B) C D	
12	来年度に向けての改善方策案		
県からの感染症情報や食の安全ニュースの資料を活用して、保健だよりはもちろん、ポスターを貼ったり、校内の掲示物を工夫し、作成する。来校した保護者の方などにも、学校全体で取り組んでいることが伝わるようにしていきたい。			

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成26年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号	102
------	-----

I 自己評価

1 学校教育目標	別紙参照	
2 評価する領域・分野	◇図書	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒・保護者の要望を聞き、蔵書の増加を検討する。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	蔵書管理のIT化と貸し出しの増加	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	図書部の発足により、教員だけでなく生徒も図書管理に協力する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
図書新聞の発行	図書新聞を作成し各教室に掲示する	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
定期的に図書新聞を発刊し、生徒の読書に対する関心を高めることができた。	図書室の訪問者・貸出冊数が増えたか。	A B C D
11 成果・課題	図書室の利用頻度は上がる傾向にあるが、特定の生徒に偏る傾向がある。今後は一般の生徒たちの利用を促す方策をさらに考えていきたい。	総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案		
「生徒の読みたい本」の受け入れも重要な案件であるが、「生徒に高校生の時代に読んでおいてほしい本」という観点から蔵書の充実を努めたい。 図書部の活動のさらなる充実。		

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成25年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号	102
------	-----

I 自己評価

1 学校教育目標	別紙参照	
2 評価する領域・分野	◇ 渉外	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒や保護者によるアンケートの対象外	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	新入学生130名以上の受入れ。転編入学者70名以上の受入れ。「すべての生徒が安心して楽しく学び、確かな学力を身につけ、自己実現していける学校」であることを広く知ってもらう。保護者会活動のさらなる充実。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	岐阜県内は教頭が訪問担当者となり、愛知県は地区ごとに担当者を割り振る。合同説明会へは、副校長が中心となり参加。保護者会役員を中心に、学校への要望・意見の表明を依頼する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
中学生募集に関しては、岐阜県内（126校）及び愛知県内の中学校（75校）への情報提供のための訪問を実施。転学生募集に関しては、高等学校訪問（24校）を実施。兼愛の適応指導教室訪問（6教室）。通信制高校の合同進学説明会に参加。	学校見学参加者の数。中学校新卒者の受験者数と入学数。転編入学者の数。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
ほぼ計画通りの訪問は実施できた。通信制高校の合同説明会には参加した。また新しい試みとして、岐阜県内の高等学校への訪問を実施した。保護者会行事の実施（総会・評議員会・高等教育機関見学会、など）	①効果的な中学校訪問 ②転編入学実績校への資料送付 ③通信制高校の合同説明会への参加（個別ブースへの来場者数） ④保護者会行事への参加状況	A (B) C D A (B) C D A B (C) D A (B) C D
11 成果・課題	12 来年度に向けての改善方策案	
26年度中に受け入れた転入学生49名、編入学生4名であり、27年度新入学生は130名であった。数字の面では概ね目標を達成したといえる。入学生に求めることを中学校に明確に伝え、問題行動を起こすことが懸念される生徒の受け入れを断ったことで、数字の面以上に「本校の求める生徒」像が定着してきていることが実感された。	次年度から週5日投稿コースを開設し、より多様な学びの形を提供していく。中学校・高等学校訪問や進学相談会への参加を継続し、「すべての生徒が安心して楽しく学び、確かな学力を身につけ、自己実現していける学校」という本校のさらなるアピールに努める。	
総合評価		
A (B) C D		

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

平成26年度 自己評価 報告書

ぎふ国際高等学校

学校番号	102
------	-----

I 自己評価

1 学校教育目標	別紙参照	
2 評価する領域・分野	◇事務	
3 一定の基準、規制の中で、それらと折り合いをつけながら、学校のおかれた環境と向き合い、自律的な営みを進めていく。	効果的・効率的な事務処理	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	教育に関わる活動と管理的、経営的活動の関連	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	共有化を図り、円滑な活動遂行の向上に努める。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
生徒・保護者が何を必要としているのかを把握したうえで、信頼される・魅力ある・安全、安心な学校づくり	生徒・保護者・地域との連携の推進、教育環境、危機管理機能はどうだったか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
支援業務に携わり、相談窓口等としての機能や学校生活に必要な情報を発信し、支援機能役割を果たしたか。	支援内容を発信し、関係機関と保護者との中継基地として、役割を果たしたか。	A (B) C D
11 成果・課題 支援業務に携わり、生徒・保護者とのコミュニケーションができた。今後も、パイプ役の充実を図りたい。	総合評価 A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案 使命感と責任感を持ち、効率的な運営を図る。		

A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分